

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

May

2025, 5

最新イベントレポートと事例に
基づくIT活用の進展



INDEX

Featured Topic

1. 生成 AI が実現し得る新しい社会のかたち
Microsoft AI Tour Tokyo 政府・公共機関向けセッション
2. AI Tour における東京都 宮坂学 副知事登壇レポート
3. ガバメントクラウド活用戦略セミナー開催レポート
4. 業務改革と組織変革を促す生成AI活用事例
5. 医療機関におけるセキュリティ対策と働き方改革の両立
6. 大学業務で活用が広がる Microsoft 365 Copilot 最新情報
7. 学内・校内の規程やマニュアル等の確認は
「エージェント」に任せよう

News

1. SusHi Tech Tokyo 2025にてパネルディスカッションを実施
2. 2025/02/25-2025/02/28
Microsoft Security Forum 2025を開催
3. DMP デジタルマーケットプレイス マイクロソフトも
続々登録中
4. 2025/3/11 製薬業界向けラウンドテーブル
5. 2025/04/23-2025/04/25
EDIX 東京 2025に出展しました

生成 AI が実現し得る新しい社会のかたち

Microsoft AI Tour Tokyo 政府・公共機関向けセッション

昨年続き、東京ビッグサイトにて 2025 年 3 月 27 日に開催された「Microsoft AI Tour Tokyo」。この 1 年を振り返っても AI 技術の進化はめざましく、本イベントでも多くの先進事例が紹介されました。「ビジョンをインパクトに変える。」の通り、AI によるイノベーションがあらゆる業界で成果をあげていることが実感できるイベントとなりました。

※本記事の全文はブログ「Microsoft 業界別の記事」にてご覧いただけます

AIとデジタルガバメントの未来

～AIセーフティ・インスティテュート様・デジタル庁様ご登壇～

独立行政法人情報処理推進機構 デジタル基盤センター長でAI セーフティ・インスティテュート副所長/事務局長の平本様は、日本政府の統合イノベーション戦略の一環として、AI分野の競争力強化と安全・安心の確保が重要であると述べました。AIのイノベーションを加速するためには、安全性の確保、ガバナンスの仕組み、偽・誤情報への対策、知的財産権の保護が不可欠であり、国際的な法規制やガイドラインの制定が重要であると強調しました。

デジタル庁 プロダクトマネージャー で生成 AI 担当の西窪様は、デジタル庁の役割として「中央省庁における利用推進」と「学習データの整備・提供」を挙げました。ここ数年の推進実績を紹介し、国の AI 活用に対する熱意と確かな取り組みが伝わるセッションとなりました。

このほかにも、本イベントでは教育機関向けシアターセッション「学校向け生成AIを提供して見えた成果と課題」や医療業界向けの取り組みの展示など、政府・公共機関向けに幅広い内容の AI活用の取り組みについて最新情報をお届けしました。詳しくは「Microsoft 業界別の記事」をぜひご覧ください。

Featured Topic 2では、東京都における取り組みについて宮坂副知事のご登壇内容をご紹介します。



Microsoft AI Tour 産業別セッションレポート
【政府・公共機関/教育/医療】
～生成 AI が実現し得る新しい社会のかたち～
<https://aka.ms/AAw8260>



AI Tour における東京都 宮坂 学 副知事 登壇レポート

2025年3月27日に行われた Microsoft AI Tour Tokyo にて、弊社社長の津坂がモデレータを務めた基調講演「AI 変革の時代をリードする（Leading in the age of AI transformation）」に東京都の宮坂副知事にご登壇をいただきました。東京都様は地方自治体の中でも最先端かつ様々な分野でDXを取り入れ、行政におけるAI活用をけん引されています。具体的には、25年1月から都庁の全職員の方々がM365環境に移行し、一部の方々においてCopilotを使える環境が整い始めています。公益性の高い行政分野におけるAIの位置づけや、東京都として今後どのようにAIを活用していくかについて、宮坂副知事と津坂の間に活発な意見交換が行われました。

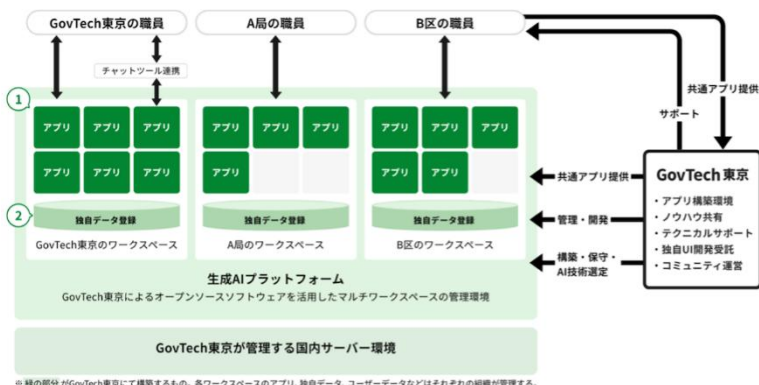
AIはゲームチェンジャー

公益性の高い行政分野におけるAIの位置づけを問われ、宮坂副知事は、全ての人をエンパワーするマイクロソフトのミッションと行政の共通点に触れつつ、「AIは生きづらい人や苦勞を抱えている人に適切に届けることで、生活水準のボトムアップを狙えるゲームチェンジャーのような存在」と述べました。その上で、「具体的な活用方法は試行錯誤中であるものの、引き続きチャレンジしたい」という想いを語っていただきました。



公共財としてのAI活用

宮坂副知事は、行政サービス向上に向けて約2万人の声を収集したブロードリスニングにおいて、AIによる分類や整理を通じた効率性や、その際に活用したプロンプトの公開による公平性を実感していると述べました。また、理事長を務めるGovTech東京では、Azure上にAIの内製開発環境を構築していることを述べ、「都内62区市町村へノウハウ等が展開できる公共財のようなAIを作りたい」と今後の展望に触れていただきました。



出典: [GovTechTokyo内製化](https://www.govtech-tokyo.com/)



ガバメントクラウド活用戦略セミナー 開催レポート

2025年4月10日、日本マイクロソフト品川本社にて「ガバメントクラウド活用戦略セミナー ～法改正を活かす！ガバメントクラウドの未来戦略～」を開催し、会場とオンラインを合わせて約200名のお客様にご参加いただきました。デジタル庁様による最新の解説や、キャップジェミニ様による国土交通省様の実践事例を通じて、制度改正後に広がる活用の可能性が具体的に示されました。マイクロソフトからは、Azure Open AI・M365 Copilot・Power Platform を組み合わせたデモや、AI 戦略およびガバメントクラウドにおける Microsoft Azure のサービス内容やサポート体制を紹介し、登壇者と参加者の間で活発な質疑が交わされました。

公共情報システムでのガバメントクラウド利用について デジタル庁 Chief Cloud Officer 山本 教仁 様

山本様は「ユーザーが“なるべくそのまま”民間クラウドを使える仕組み」を目指すデジタル庁の方針と、本人確認→予防的統制→発見的統制で構成される厳格なガバナンスを解説しました。さらに ①最新技術の即時利用 ②統制済み基盤の安全性 ③調達・コスト削減 ④マルチクラウド接続 ⑤ノウハウ共有——の5つのメリットを挙げ、「削減したコストと工数を国民向けサービス開発に充てることでさらなる価値を創出してほしい」と呼びかけました。



国土交通省様 不動産情報ライブラリでのガバメントクラウド活用事例 キャップジェミニ株式会社 C&CA CTO 高安 厚思 様

高安様は、国土交通省様と協働したガバメントクラウド・Azure上の「不動産情報ライブラリ」構築事例を紹介。要件定義からクラウド適合性評価、セキュリティ設計、運用までのステップを示し、「クラウド移行で最も時間を要するのは前段の業務フロー整理とリスク評価」と強調しました。あわせて、同社が提供する「ガバメントクラウド移行簡易アセスメントサービス」を解説し、クラウド可否判定・概算見積・アーキテクチャ提示までを5つのステップで支援するプロセスを提示されました。



セッション資料のダウンロードはこちら: <https://aka.ms/AAw4fi4>

業務改革と組織変革を促す 生成AI活用事例

お客様と地域社会を支える「共創プラットフォーム」を目指す日本郵政グループ。その実現に向けて DX を加速させる中、従業員とお客様の体験価値向上を図るべく、内製化による生成 AI 活用に積極果敢に取り組まれています。生成 AI 活用を牽引する先頭集団の一員として可能性を切り開く取り組みに挑み、Azure OpenAI を使った生成AI活用ポータルにて従業員の生産性向上・業務高度化、ひいては組織変革を促すツールとして生成AIアプリケーションを展開しています。

①背景

日本郵政グループはDXを加速させる中で従業員とお客様の体験価値向上を図るべく内製化による生成AI活用の活用検討を開始

日本郵政株式会社 常務取締役 グループCDO
飯田 恭久様



“生成 AI はあくまでも手段です。従業員やお客様の体験価値向上を実現するために『内製化』で取り組んでいきます。

②取り組み

- 誰でも簡単に使えるよう生成AIの機能をプロンプトを書く必要なく利用できる「ミニアプリ」として展開
- アプリの普及には口コミを大事にし、伝道師を育成の上、共感を伴う普及活動を促進
- システム構築の内製化により調達手続き無しでニーズにあったアプリを迅速に提供



③効果

- 半年間でポータルを通じて利用できるミニアプリ数は70以上
- ミニアプリ実行回数が直近では月間2万回を超え、利用者アンケートでは回答者の8割が効果を実感
- システム構築にかかるリードタイムを劇的に圧縮し迅速に業務課題解決に寄与

④今後に向けて

- 2025年春には日本郵政・日本郵便に加え、ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険にも利用を拡大。また全国の郵便局への展開に向けた方針も検討中
- 日本郵政の生成 AI 活用は、STEP1.「従業員が使って生成 AI に馴染む」、STEP2.「特定業務に活用範囲を拡大」、STEP3.「お客様体験価値向上に向けた活用」の3つのステップで展開を目指しています。

事例詳細はこちらから: <https://aka.ms/AAw4h0i>



医療機関におけるセキュリティ対策と働き方改革の両立

チーム医療とセキュリティを両立する ICT 基盤を目指した大阪急性期・総合医療センター

大阪急性期・総合医療センター様では、2022年に発生したサイバー攻撃によるセキュリティインシデントをきっかけに、IT環境の全面的な見直しが求められました。この課題に対応するため、Microsoft 365 を中心とした新しいシステム環境への移行を進めました。具体的には、Microsoft 365 E3 を基盤とし、クライアントPCやサーバーのエンドポイント対策を導入しました。また、端末管理の強化やクラウドへのデータのバックアップ体制も築き、安全な電子カルテ端末の利用やクラウドサービスの活用が可能となりました。さらに、Teams を活用した情報共有が促進され、働き方改革への対応とセキュリティ強化された基盤が同時に整備されました。

2024年6月には、一般社団法人ソフトウェア協会様や日本マイクロソフトとともに「医療機関における情報セキュリティ強化とDX推進に関する連携・協力の協定」を締結し、全国の医療機関に向けたモデルケースとして情報発信を目指しています。

Microsoft Security Forum 2025での発表内容

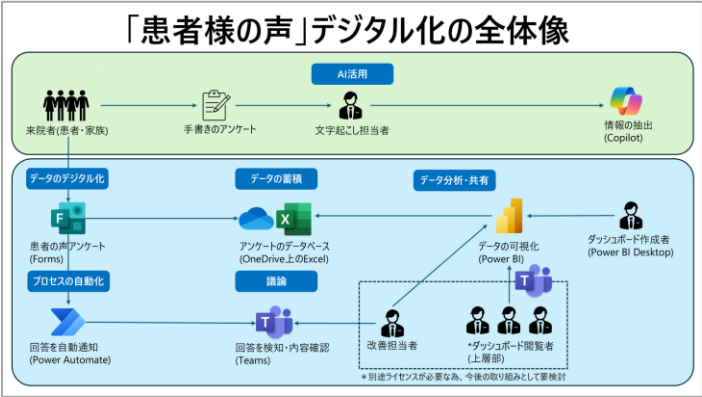
2025年2月のサイバーセキュリティ月間に合わせて開催された「Microsoft Security Forum 2025」に今回の経験を他の組織にも共有していただきたく、同センターの医師であり、医療情報部部長の森田先生に登壇いただき、インシデントの詳細な経緯や電子カルテ環境から Microsoft 365 にアクセスする為の取り組みを発表いただきました。具体的には「Windows 11 Enterprise E3」を導入し、「Defender for Endpoint P2」「Defender for Servers」によってランサムウェア対策を強化、定期的なOSのアップデートを行うなどセキュリティを強化すると同時に Teams など活用し、生産性の向上や時間外労働の削減に取り組んでいます。

導入したセキュリティ対策(一部)	
取り組み	対策
OSレベルのセキュリティ強化	・ Windows 11 Enterprise E3(Credential Guardなど)
マルウェア対策(EPP/EDR)	・ Defender ウィルス対策(OS標準機能) ・ Defender for Endpoint P2 ・ Defender for Servers
OSのアップデート	・ Configuration Manager ・ Windows Server Update Services(WSUS)
病院資産の管理	・ Intune + Configuration Manager
多要素認証による認証強化	・ Entra ID(MFA)
IDの統合管理	・ Entra ID Connect(オンプレADとEntra IDの同期)
電子カルテ端末でのクラウド利用	・ NW機器(Microsoft 365への通信のみ許可)
南海トラフ地震などに備えたBCP対策	・ Azure(電子カルテデータのバックアップ)

医療情報部長 森田先生の資料から抜粋

若手職員による Microsoft 365 活用コンテスト

2024年10月から2,200 台に及ぶ院内の電子カルテ端末が更新され、Microsoft Teams の本格的な活用が始動されました。チャットやファイルの同時編集などが日常業務に浸透しつつある中、業務改革をより一層高める取り組みとして若手職員チームによる Microsoft 365 活用案のコンテストも実施されました。その取り組みの一つとしてこれまで紙媒体でおこなっていた患者様アンケートをデジタル化するため、Teams のみならず、アンケート機能の Forms や Power Automate による通知、Power BI によるデータ可視化や Copilot による手書き文字の読み取りなど、Microsoft 365 が特別な IT スキルがなくても職員自らの手で業務改善を実現できるツールとして、若手ならではのアイデアで業務改革を牽引しています。



大学業務で活用が広がる Microsoft 365 Copilot 最新情報

大学での利活用が広がる「Microsoft 365 Copilot」。Word、Excel、Teams、PowerPointなどのMicrosoft 365 アプリケーションに生成AIの仕組みが組み込まれ、文書作成や会議のリキャップ、情報検索などを手助けしてくれます。今回は、2025年4月23日（水）に、東京ビッグサイトで開催されたEDIX 東京 2025 マイクロソフトブースにて登壇いただいた2つの大学の報告内容の概要を紹介いたします。

東京大学による活用検証の取り組み

登壇者：東京大学 本部 DX推進課 副課長 阿部 仁志 様

東京大学では、2024年7月よりMicrosoft 365 Copilot の一部教職員向けの試行を実施しています。約2か月間の初回検証では一人当たり月に6時間半の業務削減効果（12.5%）が見られました（※1）。さらに、希望者による年度内の継続検証では、7時間45分（20.6%）の業務削減効果が明らかとなりました（※2）。

東京大学では、資料作成、情報検索、自分が参加していない会議内容の把握、アイデア出し・企画、その他業務という項目で検証を行いました。随時業務に必要な手助けを Microsoft 365 のアプリ上の Copilot で補う便利さが好評で、なかでも英語翻訳の手軽さは喜ばれているそうです。

※1 調査期間は2024年7月16日～2024年9月30日。アンケート対象者200名に対し、回答者数105名（回答率52.5%）。

※2 調査期間は2024年11月1日～2025年3月31日。アンケート対象者59名に対し、回答者数34名（回答率57.6%）。



東海国立大学機構による活用検証の取り組み

登壇者：東海国立大学機構 総務部 広報課広報グループ（岐阜大学） 係長 迫 千尋 様

東海国立大学機構では、2024年10月より約2か月間の間、Microsoft 365 Copilot の導入効果検証が行われ、一人当たり月に9.1時間の業務削減効果が発表されました（※3）。

特に、総務部広報課では文書作成に焦点を当て、「プレスリリースの基本」「生成AIの基本」「生成AI活用 実践セッション」などの研修を実施。対面・オンラインのハイブリッド開催で合計約300人が参加し、生成AIに対する学内の教職員の関心の高さが伺えたといいます。なかでも、文書のタイトル案の作成や、文書の要約、誤字脱字の修正等、様々な場面での Microsoft 365 Copilot の活用が見られたそうです。

※3 調査期間は2024年10月18日～2024年12月24日。アンケート対象者36名に対し、回答者数18名（回答率50%）。

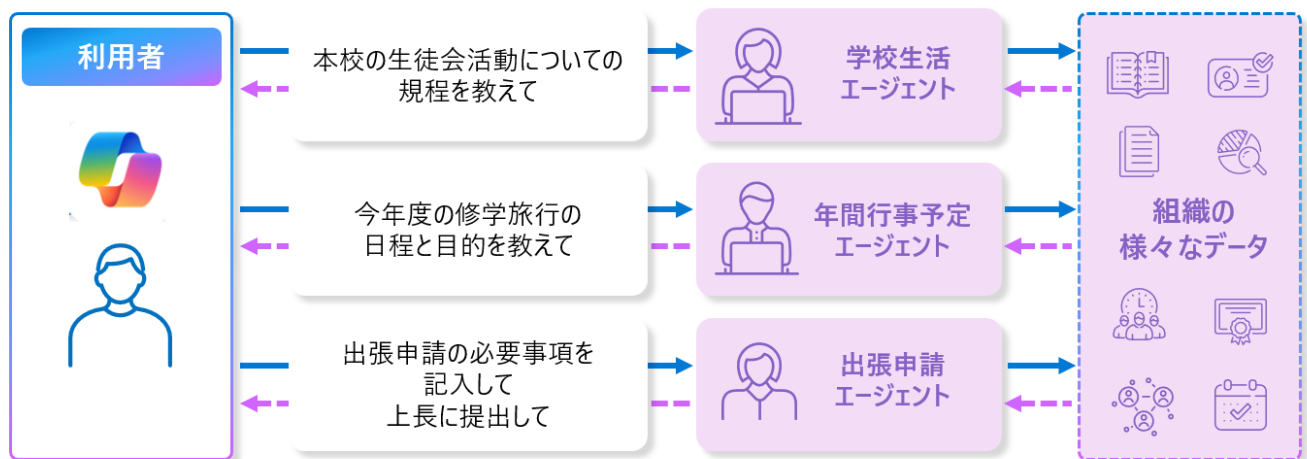


学内・校内の規程やマニュアル等の確認は「エージェント」に任せよう ①

Microsoft 365 Copilot は、Microsoft 365のアプリに組み込まれたCopilotをシームレスに利用できるだけでなく、特定の役割や文書の参照に特化した「エージェント」を簡単に作成・利用・共有することができることも特徴の一つです。今回は、エージェントを利用して、より業務を効率化するためのヒントをご紹介します。

「エージェント」って何？

Copilotの「エージェント」は、“特定の仕事・役割に特化した専門の係”として、あなたの代わりに考え、動いてくれるAIです。例えば、学校において生徒会やクラブ活動の規程を確認するときには、「生徒便覧」を参照して答えてくれる「学校生活エージェント」にお任せしましょう。何か予定を企画したいときには、年間行事予定に関するSharePointのフォルダを参照して教えてくれる「年間行事予定エージェント」に頼ることができます。ほかにも、出張申請の必要事項について確認したり、申請そのものを行ったりすることもエージェントにお願いすることができます。これらのエージェントは、Microsoft 365 Copilot Chat や Microsoft Teams を窓口として利用することができます。



既存のファイルから簡単にエージェントを作成する

校内に保存されている日常業務の文書や資料がSharePointに集約されていれば、それらのファイルを選択して「エージェントの作成」をクリックするだけで簡単にエージェントを作成することができます。作成したエージェントはMicrosoft 365 Copilot Chat内に組み込んだり、Teamsのグループチャットで共有したりすることで、教職員がいつでも呼び出すことが可能です。校内に共有されているナレッジを活かした業務支援が、特別なスキルなしで実現します。



↑ SharePoint Online の特定のサイト上のファイルを選択して、エージェントを作成する画面



↑ 作成したエージェントを Microsoft Teams のグループチャットで利用している場面

学内・校内の規程やマニュアル等の確認は「エージェント」に任せよう ②

Microsoft 365 Copilot は、Microsoft 365のアプリに組み込まれたCopilotをシームレスに利用できるだけでなく、特定の役割や文書の参照に特化した「エージェント」を簡単に作成・利用・共有することができることも特徴の一つです。今回は、エージェントを利用して、より業務を効率化するためのヒントをご紹介します。

特定の役割を指定したエージェントを作成する

Microsoft 365 Copilot Chat の画面から、特定の役割を持たせたエージェントを自然言語で作成することができます。例えば、「通知表所見アシスタント」を作成して、通知表の所見欄のドラフトを作成してもらいましょう。ルールや役割、文字制限などの指示を自然言語で与えるだけであっという間にエージェントが完成し、利用することができます。



↑ エージェントの構築画面。対話形式で上記のように設定することができる。



↑ エージェントの利用画面。キーワードを入力すると、エージェントが下書きを作成。

よりカスタマイズされたエージェントを作成する

Copilot Studio を使うことで、より複雑なタスクをこなすエージェントを作成することができます。また、作成したエージェントはTeams上や Microsoft 365 Copilot Chat 上だけでなく、特定のWebサイト上でも展開することができます。

例えば、出張の予定ができたときには、「出張申請エージェント」を頼ってみましょう。旅費規程に関する質問には、規程を参照して迅速に回答します。

次に出張申請を行うときには、「出張申請手続き開始」と依頼します。業務フロー自動化アプリ（Power Automate）と連携し、同じ画面上でエージェントと会話しながら、申請作業をスムーズに完了させることができます。



↑ 旅費規程の確認
(特定のドキュメントを参照した回答生成)



↑ エージェントと会話しながら出張申請の手続きを進め、承認担当者に承認を依頼（Power Automate と連携した業務自動化）

News #1

SusHi Tech Tokyo 2025にて パネルディスカッションを実施

2025年5月8日～10日に東京都が主催をするアジア最大級のスタートアップカンファレンスである「SusHi Tech Tokyo 2025」に代表取締役社長の津坂が登壇し、「AIとともにどのように持続可能な未来を創ることができるのか?」と題したパネルディスカッションを行いました。AIがもたらす価値とリスクや次の5年に向けた課題や未来像について、企業、スタートアップ、投資家という異なる視点から活発な意見交換が行われました。500名の会場が満席となり、立ち見も出るほど盛況のまま幕を閉じました。



当日のセミナーは500名の会場が満席となり盛況でした。左手前より弊社の津坂社長、Kotoba Technologies CEOの小島様、Turing 共同創業者の青木様、Kathy 松井様。

News #2

2025/02/25-2025/02/28 Microsoft Security Forum 2025を開催

日本政府では毎年2月から3月に「サイバーセキュリティ月間」として、サイバーセキュリティに関する啓発活動を行っています。弊社ではこの活動を支援するためのイベントを開催しています。今年のセッションには、NISC様や、大阪急性期・総合医療センター様によるサイバー被害の対応実態などもお話しいただき、多くの方の参考となったとの感想をいただきました。



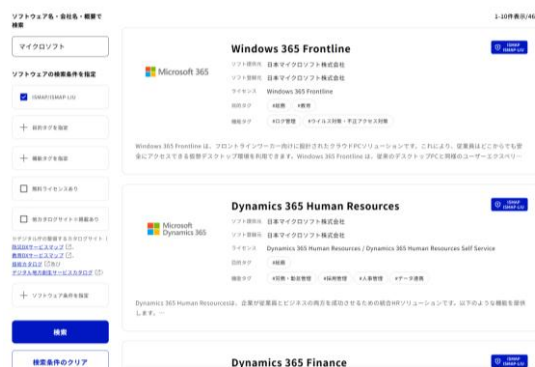
<https://aka.ms/SF2025Online>



News #3

DMP デジタルマーケットプレイス マイクロソフトも続々登録中

行政・自治体と企業をつなぐプラットフォームであるDMPがデジタル庁様から提供開始されました。DMPでは、登録されたサービスから目的に合ったものを検索でき、サービスの比較ができますようになります。マイクロソフトもDMPの取り組みに賛同し、サービスの登録作業を順次実施しています。2025/5/15日現在、46個のマイクロソフトのクラウドサービスが登録完了しています。



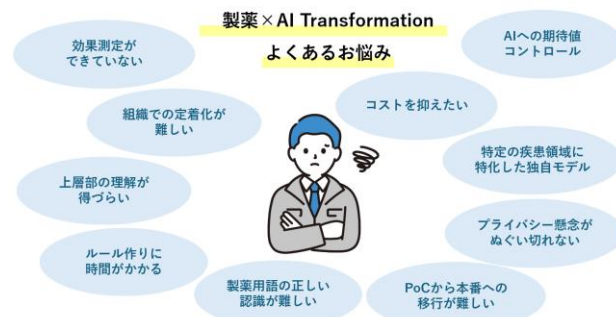
**DMP デジタルマーケットプレイス
出展：DMPサイトより**



News
#4

2025/3/11
製薬業界向けラウンドテーブル

2025/3/11に国内の製薬企業8社15様にご参加いただき、生成AIの利活用に関するラウンドテーブルを開催しました。マイクロソフトによる最新テクノロジーセッションに加え、3社様からの事例登壇や、お客様同士でのAI開発や利活用促進に関する意見交換及び懇親会を実施しました。共通課題に関する各社のアプローチ、苦労した点等が多数共有され、活発な議論がなされました。



News
#5

2025/04/23-2025/04/25
EDIX 東京 2025に
出展しました

2025/04/23-2025/04/25 東京ビッグサイトにて開催されたEDIX 東京 2025に出展しました。マイクロソフトの最新の製品情報をお届けする特設ブースではお客様の事例登壇セッションやMIEEの先生方によるハンズオンが好評を博し、4000名を超えるお客様にお立ち寄りいただきました。また、「マイクロソフト50周年記念ブース」(右図)には先生方、お客様から寄せられたメッセージが壁一面に広がり、過去の思い出や未来への期待が語られました。



<https://www.microsoft.com/ja-jp/biz/education/edix2025/>

編集後記

日本マイクロソフト株式会社
執行役員 常務 パブリックセクター事業本部長
佐藤 亮太



3月27日に開催されたMicrosoft AI Tour Tokyo、皆様は参加されましたでしょうか？私は当日朝から最後まで参加し、多くのお客様とお会いすることができたことを非常に嬉しく感じました。

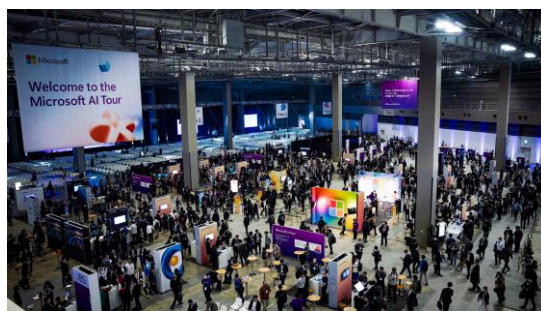
私の中でもう一つ印象的だったのが、弊社CEOのサティア・ナデラが登壇し、直前に面会した東京都立小石川中等教育学校の生徒の皆様の印象を強く感じたと言っていた点です。AIハッカソンで賞を受賞した生徒の皆様の堂々としたプレゼンテーションに私も感銘を受け、「日本の未来は明るい！」と感じました。また、AIの力は単に企業の効率化に寄与するだけでなく、新しい経験や学びにも繋がっていることを実感することができました。参加できなかった方は、ぜひ本ページ下部のURLから当日のコンテンツ等をご覧くださいければと思います。

さて、マイクロソフトでは、多くの日本企業とは異なり6月末が決算となります。私たちにとって年度の締めくくりとなり、一年を振り返る時期となっています。改めて今年度お世話になったお客様やパートナー企業の皆様に心より感謝申し上げます。

振り返ると、今年もAI一色の一年でした。Microsoft 365 Copilot の展開が更に広がるとともに、AI Agent元年として、お客様においてマルチモデル、マルチモーダル、マルチエージェントの自社Agentの開発が進んでいます。汎用的なCopilotと特化型のAgentを組み合わせていくことで、より効果的にAIを活用することができます。

一方で、公共機関においてはAIだけでなく、その前提となるクラウド利用やセキュリティ強化のご要望を多くいただいています。こうした足腰となる取組とAIの最先端活用の取組を同時に提案していくことは、来年度も引き続き取り組んでいく予定です。

来年度も変わらずご指導・ご鞭撻を賜りながら、マイクロソフトへのご支援をいただければ幸いです。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



[Microsoft AI Tour オープニング&エンディング基調講演レポート](#)
[～さあ、変革をはじめよう。ビジョンをインパクトに変える、AI新時代の幕開け～](#)





表紙・裏表紙画像はCopilotを使用して作成しております。
「晩春のオフィス街、オフィス」等のキーワードを入れています。

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

